

参考資料（第1回検討委員会 2018年7月12日 配布資料より）

私たちからの提案：行方不明にならない見守り体制のために

佐藤 雅彦委員

（日本認知症本人ワーキンググループ 副代表）

1. 私たちが、行きたいところに安心して出かけ、無事に戻れるためのものにしてほしい

- ・一人ひとり、自分なりに行きたいところがある。
- ・外出し続けることは、健康を保ち、楽しく心豊か暮らしていくために欠かせない。
- ・外出できなくなったら、生きる力がしぼんでしまう。
- ・外出を止められたら、監視されるようだと、嫌だ、生きる力が削がれてしまう。

★何のために見守り・SOS ネットワークをつくるか、

本人がより安心・安全に外出することを守り、よりよく生きていけるために、という点を大事にしてほしい。

2. 偏見を強めるような言葉や表現を、使わないでほしい

- ・わけもなく外に出て歩いているのではない。
「徘徊」という言葉は、起きていることや必要なことをみえなくしてしまう。認知症の人への偏見を強めてしまう。使わないでほしい。
- ・「危ない人」、「迷子」、「搜索」、「手配」とか、自分だったら言われたくない言葉や、暗くて大変そうな表現を使わないでほしい。今使っている場合は、あらためてほしい。

3. 高齢者だけでなく、若くして認知症になった人もカバーしてほしい。

- ・せっかく作る時に、高齢者だけのものにしなくて、若い人も含めてほしい。

4. 私たちの能力を信じて、本人ができることを広げてほしい

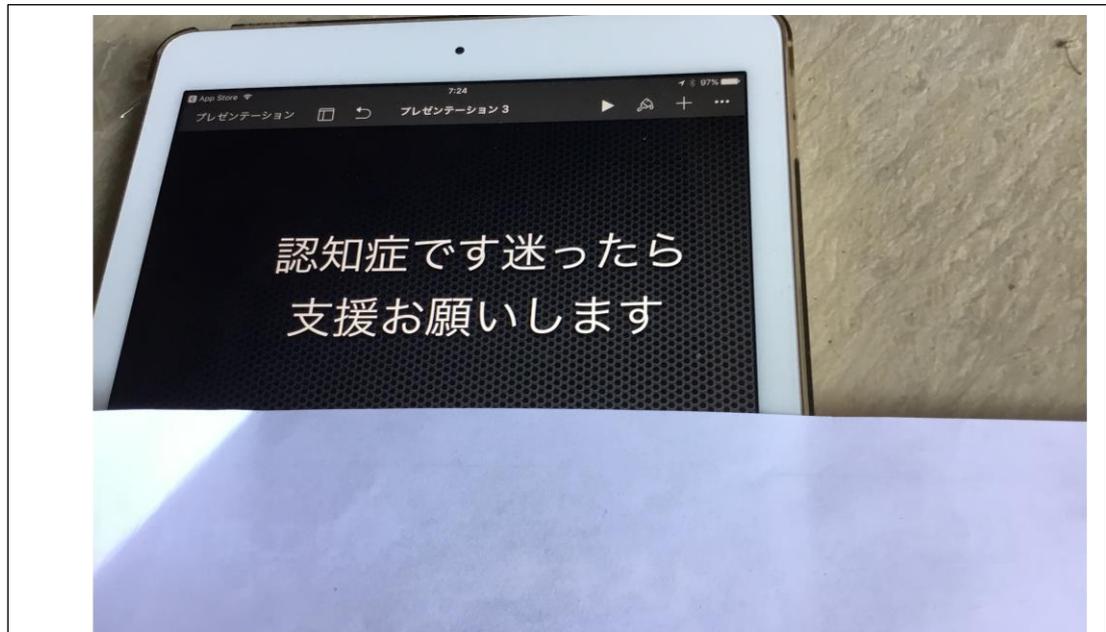
- ・周りの人たちがやることだけでなく、自分たちができることも紹介してほしい。
ヘルプカードの利用、GPSの利用、事前の登録など
- ・知らない間に名札やGPSをつけられ、監視されるようなのは嫌だ。

5. 私たちが読める、わかりやすい説明や資料をつくってほしい

6. 私たちの意向の重視して、取組身を進めてほしい

- ・何か取組む準備の段階や実際の取組み、振り返り等の時にわたしたちの体験や意見を聞いて反映してほしい。

7. 大がかりなことだけでなく、今困っている一人から、見守りやいざという時の支援を



自分が、ヘルプカードを持ち歩く。

「私は認知症です、道に迷いました、家まで案内してください」。

裏面に住所、氏名、連絡先をかく。

★一律にではなく、やりたい意向のある人から始めて、
一人ひとりのやり方を一緒に考えて、やってみながら改良を。